

平成 28 年度 研究計画書

Research Plan FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本文化学・教授
氏名 Name	水田 明男
専門分野 Academic Field	日本文化学・経済学

平成 28 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2016 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ロシアにおける年金改革の展望				
<p>研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)</p> <p>2002 年にロシアは、根本的年金改革を始めた。それは国家年金システムの長期的財政安定化を保障する。しかし非常に速く「ゲームのルール」の深刻な変更があった。したがって、その改革の新しい可能性について積極的に審議された。広い展望を持った措置が行われる。積立部分の導入から、国家企業の民営化による積極的な面の増大へ向かうものである。このもとでも、単に年金システムの発展だけでなく、相対的に現在の状況まで合意されない部分が残っている。一連の専門家は現行システムの脆弱性と不十分さについて言及しているが、他方、バターノフは年金ファンドに深刻な問題はないと見ている。</p> <p>本稿では、年金システムの長期の規模と源泉について規定することを試み、その解決の可能な方策を考察する。基本的に、勤労年金の分野の状況が分析される。その部分は、すべての年金支払いの基本的部分をなす。(9.3%) 平均的な勤労期間および勤労後の生活を構成する 2050 年までの年金システムが検討され、長期の間の若干の効果が現れる。</p> <p>市場経済への移行にともない、ロシアにおける経済格差は拡大している。一部の富裕層が存在すると同時に、広範に貧困層が存在する。格差を是正するための社会政策も有効に機能していない。たとえば、前年度研究した年金の展望に見られるように、年金の受給率はきわめて低い。積立制度が導入されたが、有効に機能せず、税金に頼らざるをえない状況にある。しかも、年金制度とほぼ同時に導入された社会税ではまかないきれず。一般会計からの繰り入れによって補填されている。従って成長産業の成長が止まった場合。危機に陥ることとなる。今年度はこのような経済格差の実態を実証的資料に基づいて検証したいと考えている。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1					
キーワード Keywords*2					